

2012.02.08「第四次補正予算は赤字国債を隠蔽するまやかしだ」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。今日は2月8日です。

午前中に参議院の予算委員会が開かれまして、第4次補正予算、これは我々も賛成をして可決をされました。この後15時半からの本会議で第4次補正は可決、成立することになります。しかし、実際の内容は中期財政フレームという形で、毎年赤字国債の発行額を44兆円以下で抑えるということを決めて民主党は予算編成を行ったのですが、結局、財源が税収不足でないということで、その国債の発行額では出来ないと判断しました。ですから本来なら当初予算にもっていくべきものを、この補正枠に隠し、これは震災復興でやっているという恰好をして編成された予算であり、まさに粉飾予算なのです。そして、年金の財源もそういう形でやっているのですけれども、将来消費税を上げたら、その上げた分でその国債は返済しますから借金のつけ回しにはならないのだという、とても信じられないような理由で今回の補正予算を組んでいるのです。

しかし、いずれにしても、震災復興の為に我々が言っていた二重ローン、これもすでに昨年の震災が起こった直後から我々自民党が言ってきたことですから、それが自民党、公明党を初めとする野党提出で法律を出していたのに参議院では我々が多数ですから通りましたけれども、衆議院では民主党が否決して出来ませんでした。それがようやく、今年になり我々が言ったような形で新しく債権買い取りの機構を作ってやっていくということも入っていま

すのでとりあえず賛成をしております。しかし、今言いましたように彼らが言ってきたこと、やってきたことが出鱈目だということで、明日からは衆議院の方に舞台が移り、平成 24 年度の予算の審議をするということになりますけれども、中身については無茶苦茶になっていますから、反対せざるを得ないだろうと思います。そして、この中で問題となりますのは、中期財政フレームがすでに破綻してしまっていることです。国債の発行がこの枠内では出来なくなっている、このことをはっきりと認めて、そして自分たちの見通しが甘かったこと、自分たちの経済運営がまずかったことも国民に伝えるべきなのです。さらに、デフレを作ってしまったし税収も落ち込んでしまっているのですけれども、このことを含めて真摯な態度で国民に謝罪し、後に消費税増税の必要性について言うならば私達もその議論に乗ることができるのです。というのも、元々消費税増税について我々は、社会保障費が毎年一兆円ずつ増えているのだから、この負担は今の我々の世代で負わないとならない、赤字国債でずっとツケ回すことはできないと言っていたのです。そのことの議論は当然乗れるのです。ところが、それをしなくてもいいと言った本人が、手のひらを返して増税するのに協力をするのは当然だと言ったような言い方をしてくると、これは議論のしようがないのです。

何故彼らはそういうことになるのかと言うと、今の民主党の閣僚席に座っておられる方々の人相、はっきりいうと悪い人相になってきています。これは嘘

をついてきているからなのです。嘘の上に嘘を塗り重ねていますが、彼らにも良心があり、きっと咎めるところがあって、それが表情にでてくるのです。ですから、口をとがらせて非常に強張った表情になっていると思います。ところがもう一方で、内閣に入っておられない民主党の議員の皆さん方の顔を見ておりますと、例えば岡田副総理が仰ったように、自分達だけに非があるのではなく、自民党も議論してきたのだから協議につくべきであり、何故、参加しないのだというような開き直りの答弁を行います。このような開き直りの答弁をすると、民主党の席から拍手が沸き起こるのです。私はこのこと自体に理解が出来ないのです。もし、民主党が自らの政策を議論し、実行したいのなら、もう少し真摯な態度にならなければなりません。このことは、決して我々野党の自民党などに、媚び諂うという意味ではありません。

国会という場は、我々国民の代表が真摯な議論を行う場であります。この国会という場で野党時代に民主党が主張してきたことが結果的に全く違う事になっております。彼らとしては騙す気はなかったという言い分があるかもしれませんが、結果として騙してしまったということになるのです。また、本当に騙す気がなかったとしたら、当初から財源のない政策を羅列し、まさに統治能力の欠如であります。このことは騙し打ちよりも罪が重いと思っております。ところが、彼らには、とんでもないことを行っているという自覚もありません。自分たちが行っていることが社会に迷惑をかけ、国民の信頼を裏切っている罪

の意識がないのです。罪の意識がないから、開き直りの答弁もするし、その答弁に対して拍手も起こるのです。普通の社会人としては有り得ない態度を取っているのです。そして、このこと自体が、彼らが国民の代表の国会議員として国政を議論する資格がないということなのです。

ですから、予算委員会を見ておりましたが、議論が先に進まないのです。いずれに致しましても、本予算は衆議院では民主党が過半数を取っておりますので通過するとは思いますが、参議院では断固反対であります。このような民主党の状態で、どうやって議論が出来るのでしょうか。議論自体が虚しいのです。つまり、議論している相手が自分達の言った言葉に責任は持たず、自分達の行為に反省もありません。私はこのことは非常に大きな問題であると思っています。ですから民主党との議論などということとはんでもない話です。しかし、一方で自民党にも、対案を出し、議論に応じるべきだという世論がマスコミを通じてあるのも事実です。ただ、何度も言いましたがまず彼らとは議論する土壌も出来ていませんし、そもそも相手としてふさわしくないのです。そのことが国民の皆さんに知られていない。また、自民党はどうするのだ、というようなことも言われるのですが、元々自民党は、税と社会保障の一体改革を含めてこうする、ということ出しているのですが、マスコミが報じていないのです。どのように、発表していることを説明していけば良いのでしょうか、という話であります。

要は現在の状況というのは民主党がとんでもないということだけではなく、本来は公平に論評すべきマスコミ側に非常に大きな問題があると思っています。マスコミの使命というのは、社会の公器として政治の真実を伝えることです。その為には、ある意味では権力を持っている与党に厳しく、少数政党である野党の意見も紹介していくのも筋であり、我々が与党の時に批判が多かったのは致し方ないと思っていました。しかし、今のマスコミを見ていると我々は野党になったのにも関わらず、なぜ自民党はもっとしっかりしないのかという報道になっています。一方、政策責任のある与党である民主党の能力不足に関しては、まだまだ突っ込み不足であります。要するにマスコミは、与党野党関係なく、反自民親民主の構造になり民主党を贖済し民主党を支持することが彼らの仕事になってしまったのです。このような構造で議論していきますと、まさに民主主義は成り立たないのです。

いずれに致しましても、3月の予算委員会が終わった直後に解散を求めている、参議院で問責決議を提出していきたいと思います。また、マスコミに対しても報道姿勢を問いただしていかなければなりません。そして、その為に、どうすれば良いのかといえ、マスコミ媒体の情報ではなく、この showyou ビデオレターやインターネット上に流れている国会論争など、本当の生の情報を直接国民に見て頂き、どちらがまともな事を言っているのかを判断して頂きたいと思います。しかも、このインターネットというのは、アーカイブになって

おり発言が残ります。ある意味では出版や報道以上に跡が証拠として残っていきます。これからは国民の理解を得るためにインターネットが大きな武器になると思っています。ですので、このビデオレターをより多くの人々に広めて頂きたいのです。

先週、私のアカウントが不正にアクセスされてしまったという、大変不本意な事件が起きました。その後、報道等で報じられたことによって showyou ビデオレター「ビデオレタージャックに負けずに頑張ります」の回の再生回数が、普段は1万程度ですが4万件を超える再生回数になりました。しかし、まだまだ少ないと思っております。将来的には再生回数も10万件、100万件を超える数になり、我々の発言が世間に影響を与えることが出来るようになれば、マスコミの報道も、今までのような芸能人やエセ知識人の訳のわからないコメントがまかり通るような事にはならないと思います。その時こそ、本当の意味でこの国がまともな方向に議論が出来るようになると思っております。このような事を実現する為にも、私も小さな一歩ではありますが、今回の4次補正のお話をさせて頂きました。今後とも、民主党の問題を追及していきたいと思っております。

ありがとうございました。